

食育健康サミット 2017 の開催について

2017年10月吉日

公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構

米穀機構では、公益社団法人 日本医師会と共催で、生活習慣病の予防・治療におけるごはんを主食とした日本型食生活の有用性等について、毎年、医師、栄養士等の方々を対象に、食育健康サミットを開催しており、本年度は、「ライフステージにおける食生活と健康～健やかな高齢社会の実現に向けた日本型食生活と運動～」をテーマに、11月9日(木)13:30 から東京・駒込の日本医師会館大講堂において開催いたします。

近年、高血圧や糖尿病、肥満、脂質異常症などの生活習慣病等の増加を背景に、中年期以降の健康課題がクローズアップされています。健康に関する課題は中年期のみならず、それぞれの世代に存在し、ライフステージに応じた適切な原因解決が必要になってきます。人の一生は、乳幼児期、青壮年期、高齢期等が、各々独立して存在するのではなく、それぞれが密接に関連して、その後の健康寿命にも影響してくると考えられます。

このため、生活習慣病を予防するためには、ある時期の問題にだけ着目して各々対処するのではなく、次の段階も視野に入れた“生涯を通じた健康づくり”という視点が重要になってきています。

また、高齢社会を迎えたわが国にとって、健康寿命の延伸のためには、生活習慣病予防はもちろん、認知症や骨粗鬆症等の予防も重要な問題であり、これらについても、食生活の改善や運動習慣の定着等が大きな役割を果たしています。

本年度は、健康寿命を延ばすために、“生涯を通じた健康づくり”という観点から、ライフステージに応じた課題の把握と解決のための食生活、特に、米を中心とした日本型食生活の意義、運動の必要性等をそれぞれの分野の課題に精通する4人の専門家とともに討議します。

食育健康サミット 2017

「ライフステージにおける食生活と健康～健やかな高齢社会の実現に向けた日本型食生活と運動～」をテーマに開催

◇日 時：11月9日(木) 13:30～17:00 (受付 13:00～)

◇会 場：日本医師会館 大講堂 (東京都文京区本駒込 2-28-16)

◇基調講演

- 講演Ⅰ 日本人のライフステージから見る疾病構造と食育の重要性
－ “伝統的な日本食 (The Japan Diet)” 研究を踏まえて－
帝京大学臨床研究センター センター長/寺本内科・歯科クリニック 内科院長
寺 本 民 生
- 講演Ⅱ 若い女性の低栄養と次世代の健康リスクー炭水化物の役割ー
早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 招聘研究員/千葉大学 客員教授
福 岡 秀 興
- 講演Ⅲ 高齢者のフレイル・サルコペニアや認知機能低下を防ぐための低栄養対策
東京都健康長寿医療センター 内科総括部長 荒 木 厚
- 講演Ⅳ 性・年齢を考慮した栄養と運動の役割ー高齢社会を視野に入れてー
京都大学名誉教授/京都産業大学・中京大学 客員教授 森 谷 敏 夫

◇パネルディスカッション

テーマ：「ライフステージにおける食生活と健康

～健やかな高齢社会の実現に向けた日本型食生活と運動～」